

□ 三島市立山田中学校 校長 安藤 宏 通

日時 平成26年6月19日(木) 13時30分～15時00分
 会場 三島市立山田中学校 体育館
 参加者 364名 一教職員・生徒・保護者・地区住民

演題 オール1からの挑戦 ～可能性ゼロからの出発～

講師：梶 浦 真 (教育報道出版者 代表)

講演内容

本校教職員、生徒、保護者、地区住民、他校校長・教頭を含む364名の中で、講演会を開催することができた。まず、「現在自分は、教育関係の雑誌や先生向けの授業についての本を書き、授業の研究会や検討会等に参加し、自分が勉強したことを話し合いの材料にもらっています。」と自分の現在行っている仕事についての説明をされた。

次に生徒たちに、「将来、自分で本を書きたいと思っている人いますか？」と投げかけた。「君たちなら、必ずできます。こんな自分でさえできているのだから。」と話された。次にプロジェクターを使用しながら、ご自分の小学校の時の通信簿をスクリーンに大きく映された。全ての教科が1であり、担任のコメントも記載されていた。また、母親が学校に呼び出され、知能検査を受けることになったこと。3名受けて、その内の2名が特別支援学校に転校して行った。ご自分も特別支援学校を勧められたが、普通学級に留まったことを語られた。生徒全員がびっくりした表情に変わり、梶浦先生に注目し始めた。その後、その時のご本人の気持ちや想いを「俺って、ダメな人間なのかな？」という表現で語られた。次に自分を振り返るように、自分が少年時代にどんな少年だったか例をあげながら語り始めた。ある日、どこの小学校にもあった二宮金治郎が読んでいた本は何の本だろうと疑問をもち、納得できるまで調べるような少年であったことが語られた。そのほか「五千円札に肖像が載っている新渡戸稲造のネクタイは、なぜ白いのか？小笠原諸島は静岡県に一番近いのに、なぜ東京都なのか？等、見たり聞いたりする中でいろんな疑問が出てきて、いろんなことを不思議だと思う少年であったことを語られた。

中学校卒業後は職業訓練校への進学を考えていたが、サッカーを通じて「帝京高校」に進学し、サッカーに明け暮れたこと。高校卒業後は、バーテンダー、宅配ドライバー等多くの職業を経験し、20代半ばで全国教育新聞社に入社し、長期にわたり営業職、編集職を経験し、企画編集部長を経て独立されたこと。特にこの時代には、「人から頼まれると嫌と言えず、人の嫌がる仕事ばかりしており苦情処理係を担当した。」という話でした。そんな中で、少しずつ少しずつ知識を積み重ねて、十数年間学び続け現在の教育報道出版社を設立されたことでした。

また、お話しの中には、本年度の学校経営目標である「多くの達成感を積み重ね、自尊感情を高められる生徒の育成」を意識してか、「自信を獲得するための第一歩は自分を知ることである」という話をされ、「ジョハリの窓」についてプロジェクターで詳しく説明をしてくださりました。

- ・「開放の窓」：自分も他人も知っている自己
- ・「盲点の窓」：自分は気づいていないが、他人は知っている自己
- ・「秘密の窓」：自分は知っているが、他人は気づいていない自己
- ・「未知の窓」：誰からもまだ知られていない自己

という話を具体的な例を挙げながら「自己理解を深めていくこと」が対人関係における自己開示、コミュニケーション、気づき、自己理解に繋がることが説明された。また、「自己開示」と「フィードバック」を繰り返していくことで「開放の窓」が広がり、「未知の窓」の領域に広がっていくことが「気づき」であり、気づきが意欲→行動→結果→自信→意欲という正の循環に繋がると説明された。

講演の最後には、自分が夢をもって挑戦・チャレンジしていく社会やこうありたい人の話、可能性を畑に例えた話をわかりやすく具体的にされ講演を締めくくられた。

- ・他人への思いやりのある人
- ・何事にも寛容で、忍耐強い人
- ・グループのためにサービスできる人
- ・同僚に対して魅力的な人
- ・孤独に強い人
- ・危機に際して、リラックスできる人等



成果及び特記事項

生徒の感想から

「オール1から新聞記者なんて、すごいと思った」

「僕は今、ある病気にかかり勉強が全然わかりません。すごく将来のことが不安ですが、講演を聞いて少し気持ちが楽になりました」「自分も可能性を広い広い畑にまいて、良い芽を出して実を育てていきたい」「心コロコロの話が面白かった」(3年生)

「僕は成績が悪いけれど、がんばりたいと思うようになった」「オール1の通信簿は漫画でしか見たことがなく、衝撃が強かった」「心のスイッチを切り替えて失敗を恐れず笑ったり泣いたりせず、自分なりにがんばってみようと思った」(2年生)

「とにかく挑戦しようと思った。可能性はゼロじゃない」「若いときは今日が大事なんて言われて不思議だったけど、なるほどと実感できた」「今日の夢講演会は良かった。こんな僕でも自信をもちたいと思った」(1年生)

以上のような感想がほとんどであった。「自分は勉強ができないから・・・」「僕は友達が少ないから・・・」という自分に負のイメージをもった生徒にとっては大きな成果があったと思われる。本校の学校経営目標の具現化に一歩近づくことができたのでは感じられた講演会であった。